

合原・関二人の映像リサイタル開催

6月8日(土)に淀屋橋・朝日生命大ホールで

8ミリで映像を撮り始めたのが大阪万博1970年の前年、1966年でしたから、合原氏は今年で50年目、関氏はそれより少し早くから始められていましたので半世紀を超す実績があります。そこで二人共ひとつの締めとして、今までの作品を蔵から引っ張り出して多くの皆様にも観て頂こうと「二人の映像リサイタル」を企画いたしました。

地下鉄御堂筋線淀屋橋駅のすぐ上にある朝日生命ホールは、かつての8ミリ映画発表会の定席会場でした。OMC50周年記念発表会もここで開催いたしました。交通の便もよく、会場も発表会にふさわしい雰囲気をもつ場所なので、思い切って朝日生命ホールで行います。準備は始まったばかりでプログラム構成などはこれからですが、OMC会員の皆様には何かとお世話かけますが、よろしく願いいたします。

東京では合原会長が単独で開催

東京では5月17日(金) 亀戸文化会館・カメラホールにて13時より「合原一夫・映像リサイタル」が開催されます。東京アマチュア映像連盟の全面的なご協力を得て現在着々と準備が進んでおります。この道50年たくさんの作品の中から11作品を選んで上映されます。

作品上映 第1部①ツリーの最後 13分 ②ベランダ 8分 ③ご苦労さん 14分 ④紀州へら竿師 15分 ⑤鎮魂の島は今 10分 ⑥海苔に生きる 10分 第2部 ⑦ベトナムの女たち 10分 ⑧追憶の故郷(さと)は今 12分 ⑨最後のたんぼ 7分 ⑩君の生涯 よく頑張ってきたね 20分 ⑪私の生涯もう少し 20分(本作品は1月現在まだ制作中、完成2月か?) 以上

2月例会のご案内

■2月は、第2例会はありません

■通常例会:第4土曜日23日午後6時より、難波市民学習センターにて

■撮影会参加申し込み:参加希望者は高瀬世話役へどうぞ。

会費 15,000円と交通費(高速バス梅田~天橋立往復) 5,000円 計2万円おさめてください。

課題コンの「題」は5月発表

5月1日に新天皇が即位された後、歌会始めの来年の御題が発表されることになりましたので、その御題を頂いて毎年課題コンテストを実施しているわがOMC(この行事はOVCから引き継いだもの)も、その「題」が発表されてから、作品づくりに着手することになります。さてどんな題になるのでしょうか。

ちなみに昨年発表になり今年正月に催された歌会始めの御題は「光」でした。

課題コンの公開審査は9月第2例会の日といたします。

■訃報:蟹江利一会員が逝去

かねてより病氣加療中だった蟹江利一会員が昨年暮れに亡くなられ、家族葬が営まれていたことが判りました。昨年7月第2例会に出席され「住吉公園ぶらり寸写」という6分の作品を持参されたのが最後でした。よく旅行物の作品を見せて頂いたことが印象に残っています。ご冥福をお祈りいたします。

■新入会の 堀 皓二氏 の連絡先
〒569-0026 高槻市天川町 41-7
TEL 072-671-5230

自作のコメントを重視 内容やねらいを要領よく

書記役の負担軽減策として、全作品の講評を書記担当者が書いていましたが、なかなか労力を要するという声があがり、昨年 11 月第 2 例会より、出品者に自作のコメントを書いてもらい、必要に応じて若干会長が講評を載せるという試みをやっていますが、やはり自作のコメントの書き方にバラツキがあり、課題がみられます。

3 月の臨時世話役会でこの点も含めて書記のあり方、コメントの内容等についての方向付けなど、通常例会も含めた検討に入りますが、今までの試行から伺えた課題について考えてみたいと思います。

- ①コメントは用意された用紙に家であらかじめ書いてきてください。
- ②旅ものであれば、行った国や都市名、地方名などを判り易く記入、どんな歴史や伝統が有るのか、感じた点を簡潔に。
- ③祭りもの；場所、撮った年・月、特徴や伝統的な祭りかどうか。主に何にねらいを絞って作品にされたのか等々。
- ④記録、ドキュメンタリー；作品のねらい依頼されて作ったものかどうか。苦労したこと、撮影に要した月日など。
- ⑤散策、スケッチ的なもの；どこかポイントになるところ、ここがよかった、感じた点など、唯、きれいキレイであっては作品として評価されない。
- ⑥ホームムービー；孫と遊んでも、おじいちゃん、おばあちゃんの目から見て何か感じるものがある筈。この記録が先々役に立つかも、という視点でまとめても面白い。
- ⑦課題コンテスト；「題」が決まったらタイトルの中に「題」の一文を入れた作品を作るコンテスト課題だが、作品のねらい、何を描いたものか判るコメントを。
- ⑧撮影会作品コンテスト；タイトルにひと工夫ほしいところ。何を主体にまとめるか、楽しい仲間との旅の記録か、ご当地の歴史とか伝統を伝えたいのか。良き風景に感動したという作品なのか、作品の描こうというねらいをコメントしてほしい。

※

4 月例会からは従来型の書記役による講評は取りやめになり、作者自身のコメントが紙面を飾ることになり、記録として残され、またネットによる発信もされますのでせっかく作った作品ですから、精一杯の PR 記事にしてほしいと思います。コメントは一行だけのものではなく、40~90 字位を標準にしてまとめるようお願いいたします。(合原)

1 月例会レポート

1 月例会は 26 日午後 6 時より、いつもの難波市民学習センターで開催。寒い盛りで風邪を引いた方も多いのか出席者は第 2 例会並みの 14 名にとどまりました。体調のすぐれない方も多く、ことしの例会の出席状況が思いやられます。

今月は人不足で合原会長が司会と書記役を一人でこなすという異常時体制。作品の数は 10 本の 2 桁台にのせ時間一杯でした。

■出席者：江村、岡本、紙本、合原、進藤、関、高瀬、坪井、中川、野田、華岡、森口、森下、森田の 14 氏と作品 10 本

(今月の講評は合原会長です)

■作品上映

1、ユタ州東部の三公園を訪ねて BD 華岡 汪 10 分 48 秒

西部劇の舞台に相応しい雄大な景観が次々に出てきて観る者を魅きつけます。如何にもアメリカらしい国立公園の様子が描かれていました。いろんなアーチ状の奇岩やアクロバットの岩石の景観など、地震のない国だから残っているのでしょうか。とにかく日本では絶対に見られない雄大な景観を楽しませていただきました。



2、龍神の郷 室生路 BD

森口吉正 9分50秒

早朝の霧のかかった風景の出だしは秀逸です。早起きして撮影に行かれたご苦労ぶりに応えるカットでした。場所は奈良県宇陀郡。最終目的地の有名な室生寺の五重塔までの道筋で岩に彫られた石仏や伝説の洞窟や神社仏閣など撮り入れられて1日の散策を楽しまれた様子が伝わってきました。BGM もよくマッチしていたように思います。

それにしても森口さん、お元気であちこち行かれて撮影してられるその行動力に敬服です。早速秋の公開映写会の候補作品が出ました



3、大阪市消防出初式 BD

坪井仁志 4分30秒

毎年1月に大阪南港で行われる消防出初め式の様子を撮影されました。

ヘリコプターが大空に舞い人命救助の場面などバックが雲天なのが映像カットとしては残念。

はじめの頃、画面がフェイドイン・アウトが何回も続き気になりましたが、撮影時のトラブルでしょうか

午前10時過ぎに部分日食の様子が撮影されていました、当日は部分日食があったのだとはじめて知りました。珍しい事象をとらえて出初式の印象を深めました



4、蚕さんの里 BD

紙本 勝 10分35秒

兵庫県養父市、以前から蚕さんを飼い絹糸の産地だったようで、今でもその伝統を受け継ぎ、まちの振興策に一役買っているとのこと。記念館や資料館など丹念に回られて撮影され、インタビューも入れられて判り易い作品に仕立て上げられています。今どき生きた蚕がみられることに驚きです。

蚕といえば昭和56(1981)年、OMC 余呉湖周辺の一泊撮影会のことを思い出します。

当時前々の会長の川畑健司さんがご健在で蚕を育てるところや、まゆから糸をとるおばあちゃんの姿、そのおばあちゃんが切々と唄う地元で伝わる民謡など、今ではぜったいに撮れないカットが撮れたことに、改めて時代の流れを感じます。



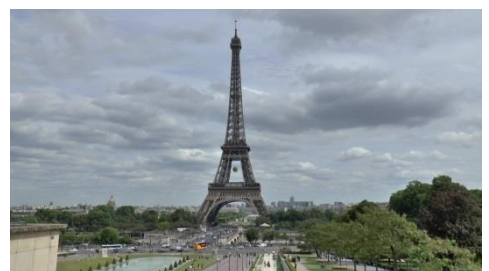
5、フランス パリ市内観光 BD

中川 良三 13分10秒

4年ほど前フランス4日間のツアーに参加されたとき撮影されたものだそうです。まずパリの地図を出して行った先の道順を示すカットから始まります。観光バスガイドさんの説明（もちろん日本語）をフルに使っていき先々の説明をされています。

エッフェル塔や凱旋門など有名な場所は誰でも判りますが、繁華街、ショッピング街など異国情緒にあふれたところもあってパリに行ったことの無い人もその雰囲気はひたることができました。

新人の中川さんだからあえて講評を述べますが、まずタイトルの「フランス パリ市内観光」の「フランス」は無くともパリとうたってあれば誰でもフランスだと認識できるでしょう。タイトルも正直過ぎて味がないとも言えます。ひと工夫必要なところですが、バスガイドさんの説明を活かすのは結構ですが、どうしても声ははっきりしないので、ポイントになるところは字幕で補うといいでしょう。ラストカットはスーパー内の流し撮りでエンドマークがついていましたが、旅の映像では特にラストカットを大事にしたいところです。街全体の俯瞰や夕陽、ネオン街で如何にも観光の最終日の夜を伺わせるカットとか、10秒以上の長目のカットフェード、BGMも同時に終わるよう配慮するなど。また最後に旅の良かった印象を綴ったナレーションを入れる等の配慮をすれば、もっともっと良い作品になるでしょう



旅の同行者にあげる場合は、旅の道順スケジュール通りに編集しないと違和感を持たれますが、自分の「作品」にし、第三者に観て貰う場合はスケジュール通り撮影した順序通りに編集する必要はありません。旅先に夕方着いたとき、夕陽がきれいだと思ったらすぐに撮影しておく、編集の時にラストカットに使えるかもしれません。トップシーンとラストシーンは心して撮影しておくようにしましょう。このパリ市内観光の作品も、トップに地図で道順を説明されていますが、記録としてはともかく、一般向けの作品の場合はあまり意味のないカットといえるでしょう。

また途中凱旋門のところで画面が二つに分けて同じ画面を同時に表現されたところがありますが、その意図が判らず、唯変わった表現をされたというだけで終わっています。変わった表現をする場合は、意図を強調するとか、同時に二か所を説明するとかアップとロングの組み合わせで何かを強調するとか意味のある、効果的などころだけに限定して使うようにしましょう。できれば使いたくないところですよ。

中川さんは、これから伸びしろの大きな方だと思いますので、よい作品をたくさん見て、作成の構成の仕方、意図の伝え方など勉強してください。そのためにも各地の発表会に出掛けて行って、観て、感じて、良いところはどしどし吸収して自分自身の作品に生かしましょう。とりあえず今年の秋の発表会用作品を一作目指してください。

6、二十八使者練行列 BD 江村一郎 8分15秒

江村さんのようなベテランともなれば何も言う必要はありません。出だしのテンポの良い画面とBGM、さすが江村作品。奈良県信貴山でこういう練供養がある事を、はじめて知り興味が湧きました。お面をかぶせる準備のところは本番だけではない拡がりがあったてよいカットです。練供養も足もとのアップなどさすがツボを心得た撮影ぶりです。ただ編集の途中で滝や風景のカットが長く、練供養のテンポが殺がれたように感じました。この辺は作品構成にひと工夫あってもよいかと考えます。途中撮影禁止の看板が見えましたが、ノンナレーションなので、その辺をどう克服されて撮影されたか聞いてみたいものです。



7、ちょうらい ちょうらい BD 高瀬辰雄 7分10秒

京都市伏見の法界寺のお祭りの様子を描かれたもの。子供たちが、白ふんどし姿の裸で“ちょうらい、ちょうらい”という掛け声を掛けて踊る。正月から14日までの祭りで、寒い盛りによく子供たちが裸踊りに参加したものだと思います。

以前は市内5ヶ所ぐらいの寺で行われていた裸踊りが今では法界寺一か所になったとのこと。それだけ伝統の祭りを維持し守っていくことの難しさがあるのでしょうか。子供たちに引き続き、大人の出場、水かぶりの後同じく“ちょうらい、ちょうらい”の掛け声と共に体をこすり合わせながら裸踊りが奉納されます。

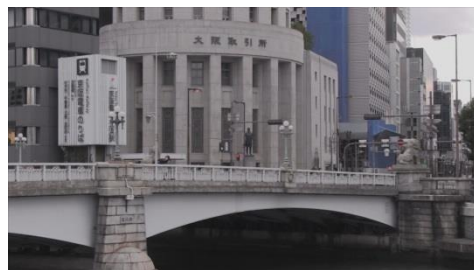


ノンナレーション作品ですがラストに字幕で「今後も続けていって欲しい」と結ばれています。寒い中撮影ご苦労さんでした。

8、大阪中央公会堂 100年の輝き BD 進藤信男 13分55秒

かつて大阪淀屋橋付近には蔵屋敷が建ち、商売繁盛の街として栄えていました。中でも岩本栄之助は相場師として大儲けをし、当時としては大金の百万円を大阪市に寄付し、中の島に公会堂を建てたが、完成前に相場に失敗し自殺、公会堂の完成を見ることなくこの世から消え去ったという、歴史を中心によく調べて話を進めていきます。公会堂も最近耐震補強工事も終え、国の重要文化財に指定されました。

この作品の後半は年末恒例の壁画に映し出すイルミネーションを詳しく撮影されていて、なんでも歴史を物語ったテーマのイルミネーションらしいのですが、観ていてもなかなか意図が伝わりません。題名の“100年の輝き”がイルミネーションの輝きを指しているのか、新しく生まれ変わった中央公会堂そのものを指すのか、どうも作品のねらいが中途半端で勿体ないと思います。イルミネーションは単なる添え物にして、ここは中央公会堂そのものの100年の輝きに焦点を当てた作品にしてほしいところです。したがって、ラストカットも昼間の堂々とした中央公会堂の外観のゆっくりとしたズームバックで終わると更に印象深い“輝き”になるでしょう。



9、春を呼ぶ護摩供養 BD 15分00秒 岡本至弘

説明がないのでどこでどういう行事なのか判りませんが多分未編集作品だと思います。途中梅の花が咲いていたので梅の季節でしょう。こういうカットはトップ近くの最初の方へ持って行った方がまず観客に季節を暗示させるものです。のぼりに、正一位稲荷大明神とあり、氏子のハッピーに鴨高田神社とありましたので、作者近くの神社さんの行事かもしれません。山伏姿の男たちの所作、弓矢を放すところ、護摩焚の様子など丹念に撮影されています。カメラの位置もよい場所に設置されていて撮影はよくとられています。



氏子代表？挨拶に“初めての行事”とある様に思いましたが、新しく始まった行事なのかもしれません。いずれにしても作品の長さ13分をもっと縮め、ナレーションもいれて“初めての行事”に至った経緯などを加えて再編集されるともっと良い作品になると思います。

10、追悼の故郷は今 DVD 12分00秒 合原一夫

本作品はもともと平成13年(2001)作のものを東京での私の映像リサイタル発表会を前に再編集したものです。今から20年ほど前の古びた田舎町柳川市を“廃市”と小説に書かれたことをきっかけに、川下りを中心とした観光都市に生まれ変わったという、わがふるさと柳川を描きました。



タイトルの”今“は作品制作時、平成13年頃の今であって今日の”今“ではありませんが基本的には変わっていないと思います。

第2例会レポート

1月第二例会は第三木曜日17日難波市民学習センター第三研修室にて開催。

気温も10度程度と出かけるには少し気合を入れなければならない状況。

前回に続き出品者のコメントを参考に司会進行された。

今月の司会は合原会長、書記無し、映写中川、記録江村、受付・照明森下、宮崎の各氏の担当で進行した。

■出席者：植村、江藤、江村、岡本、紙本、河口、合原、関、高瀬、中川、中村、西村、堀、宮崎、山本、森下16氏と作品8本

■上映作品(コメントは出品者)

1、涉成園散策 BD 8分38秒 中川良三

<作者コメント>

東本願寺別邸であり、飛地境内地の涉成園、JR京都駅にも近く、庭園から京都タワーも見える。「涉成園」の名は、中国六朝時代の詩人・陶淵明の「帰去来辞」中の「園は日々に涉<わた>って以て趣を成し」に因る。かつて周囲に枳殻(からたち)の生垣が組まれたことから、枳殻(きこく)邸とも呼ばれた。



<会長講評>

京都駅近くにもこんな静かな広い庭園があることを知って驚きです。

撮影はよく丁寧に撮られていて結構ですが、単なる観光紹介映画になってしまっているのが惜しい。

作品の意図をはっきり定めて編集すれば見る人になるほどと“私も同感”と感じ取ってくれる筈。

私がこの作品を描くのなら、まず京都駅付近の観光客あふれる街の騒音、見上げると京都タワーが、そのアップ、それからズームバックしていったってカメラ目先を下に向けると「涉成園」へ。そこから静かな庭園へと場面転換していく、という構成をすれば見る人を静から動へ、すんなりと入っていける。

また、京都駅近くにもこんな素晴らしいところがあるのか、と感じてもらえる。この作品は第三者的な目でなく一人称で、自分の感じた散策の満足度を表現したら、きっと良い作品に生まれ変わります。トップの地図の説明は不要です。

2、霧島 九面太鼓 BD 8分00秒 江村一郎

<作者コメント>

去年の大阪城秋祭りイベントから幕末維新150年ファイナルの薩摩示源流演武と和太鼓集団演奏を取り上げまとめました。タイトルの霧島九面太鼓は昨年大河ドラマ「西郷どん」のタイトルバックに使われたことで脚光を浴びる。



3、ベオグラード訪問 **BD** 山本正夢 **9分10秒**

<作者コメント>

次男嫁実家を訪問し、市内観光案内してもらいました。

<会長講評>

作者コメントが短か過ぎて第二例会当日欠席の方には判らないと思いますので、簡単に付け加えますと、ベオグラードはヨーロッパ、セルビア共和国の首都で、辞典によるとドナウ川と支流サーヴァ川との合流点による交通の要衝で、古来、諸民族争奪の地だったようです。息子さんがヨーロッパに住んでおられて、その案内で珍しい地方を旅して楽しんでおられる山本さんがうらやましい限りです。ベオグラードの古くから遺跡や建物など楽しませて頂きました。



4、工場のある風景 **BD** 紙本 勝 **8分10秒**

<作者コメント>

工場群の躍動感をイメージした作品をと出かけたものの工場は撮影にご都合よい施設ではない事を体験、躍動感等全く表現できない駄作となりました。



<会長講評>

作者は自身で“駄作”と謙遜されていますが、どうしてどうして、ここまで撮影するのにあちこち駆け巡るには大変だったと推察されます。健脚の紙本さんならではの作品でした。

5、銀杏 里人とともに **BD** 河口禮志 **6分45秒**

<作者コメント>

ある農村の八幡宮境内に生えているギンナンの大木は、里人の生き証人である。神を敬う里人の姿を過去の式年祭も交えて綴る。時として天は大洪水を発生させ、水田に害を与えた。里人の苦労が始まる。

<丹波篠山ビデオ審査委員 講評>

八幡宮の境内に立つギンナンの大木が里人の暮らしを見守る作品です。銀杏の一人称での展開が面白く、銀杏の里人を思う温かな語り口も作品の味になっています。

ただ、銀杏を主人公とするなら、銀杏と里人の関わりがもう少し描かれても良いのではと感じました。又、式年祭よりも水害を中心に話を作った方がよりメッセージ性が強まったのではないのでしょうか。



6、19歳の挑戦者 **BD** 堀 皓二 **12分30秒**

<作者コメント>

知人から主人公を紹介され、取材を始めたが意外と日数がかかりました。彩の国入賞作品"



7、新舞踊五曲 **DVD** 高瀬辰雄 **15分40秒**

<作者コメント>

呉服問屋の知人に頼まれ、きものイベントの中の新舞踊を撮影。3年3回のイベントで数十曲のおどりを撮りました。その中から5曲を選び、まとめてみました。

ただ、その中で1曲、撮り方に問題ありとの指摘がありました。(カメラは3台(内2台固定)で撮影。(指摘内容は舞踊家のアップは駄目だそうです。)



8、日本・ベルギーの フラワー・カーペット **BD** 江藤洋司 **5分50秒**

<作者コメント>

2年に一度、ブリュッセルのグランプラス広場で、フラワー・カーペットが開催される。

2016年の20回目のテーマは、「日本・ベルギー友好50周年」だった為、「日本」だった。

